



「COC 推進会議」議長  
を務める古賀実学長

本学が文科省に申請した「地(知)の拠点整備事業」(COC事業)が同省により採択されました。今後、本学は、教育・研究・社会貢献のすべてにわたって今まで以上に地域社会に貢献する諸事業に取り組む、地域の再生と活性化の一翼を担うことを目指します。本学のテ

熊本  
県大COC通信

熊本県立大学  
COC推進室

Center of Community (COC)

## 熊本県の「地(知)の拠点」に！

— 文部科学省が採択 —

「ママは『もやいすと』育成と産官学民の対話と協働で拓く地域の未来」です。

### 自治体と連携した取組

COC事業は、大学と自治体が連携して、地域活性化に向けて活躍する人材を育てるとともに、地域の課題を大学の機能を生かして共に解決しようというものです。本学ではこの事業の実施にあたって「COC推進会議」を新設し、学長のリーダーシップの下、全学的にこの事業に取り組みます。

古賀学長は「共学化、総合管理学部開設二十年に当たる、この節目の年に、さらに『地(知)の拠点』としての取組を進め、地域において存在感のある信頼される大学を目指していきます。」と語っています。

### 地域志向で教育改革

地域で活躍できる人材になるためには、地域の実情を深く理解するとともに、地域の課題発見とその解決策を立案し実行する能力が必要です。そのような人材を育成



するために、特に初年次の学生には実際に地域に出て学ぶ地域理解科目を必修化するなど、地域に関する科目を拡充します。また正規

カリキュラムのほか、地域における学生の自主活動も教育活動の一環と捉えるなど「もやいすと育成システム」を体系化し、それらを通じて自分の能力がどれだけ高められたのかを測定する新たな「学修評価手法」の開発を目指すなど、本事業を通じて地域志向の教育改革を実施します。

### フューチャーセンター開設

研究や社会貢献の分野では、地域の課題解決・活性化に向けた取組として、新たにフューチャーセンターを開設します。フューチャーセンターとは、「オープンな対話の場」のことで、特に東日本大震災後、住民同士の対話に基づく街づくりの手法としても注目されています。

学生や教職員、自治体関係者だけでなく企業や各種団体、地域住民等が、未来志向で対話する中から、課題解決のヒントが得られるよう、さまざまなセッションを学内外で開催します。